

2011年5月11日

民主党「社会保障と税の抜本改革調査会」

総会提出資料－Ⅲ

## 今後の年金制度改革において民主党がなすべき対応

参議院議員 辻 泰弘

- ① 民主党がめざす公的年金制度の制度設計の具体的提示
- ② 上記の完成をめざした抜本改革のプロセスと当面行うべき改革の提示
- ③ 民主党のめざした年金制度改革が、大多数の国民の年金給付水準を下げることを意図したものではなく、むしろ国民の負担をある程度引き上げることになろうとも、概ね現行水準を維持しながら、最低保障機能を強化しようとするものであったことの国民に対するメッセージの発信  
(現状のままでは、「あれこれ言っていたが、結局のところ、民主党の年金制度改革とは、財政的見地から、国民の年金の給付水準を下げるものでしかなかった」と言われる結果になりそうな懸念あり。)
- ④ 民主党が強く反対した16年改正に対する見直し案の提示  
(「あれだけ反対していたのに、政権交代後、何も手を加えないのか」「では一体何だったの」との素朴な疑問が湧く。)
- ⑤ 民主党案に固執することなく、幅広い国民の理解と与野党の合意を得るための不断の努力とその姿勢の堅持